

令和6年度 第1回守谷市通学区区域審議会会議 議事録

1 日 時 令和6年5月30日(木) 18:00~20:05

2 場 所 守谷市役所 大会議室

3 出席者

○委員 (20名中19名出席) 以下、敬称略

- ・奈幡 正(守谷市校長会会長・黒内小学校校長) ※副会長
- ・片岡 正美(守谷市校長会副会長・愛宕中学校校長)
- ・荒井 弘勝(守谷小学校校長)
- ・高野 香保里(御所ヶ丘小学校校長)
- ・下村 典子(けやき台中学校校長)
- ・吉田 あゆみ(守谷市 PTA 連絡協議会会長)
- ・青木 一央(大野小学校 PTA 会長)
- ・永井 祐介(守谷小学校 PTA 会長)
- ・小泉 亮一(御所ヶ丘小学校 PTA 会長)
- ・山本 広行(松ヶ丘小学校 PTA 会長)
- ・藤井 穂高(国立大学法人筑波大学人間学群教授) ※会長
- ・赤井 紀男(北守谷地区まちづくり協議会)
- ・中島 伸一(大野地区まちづくり協議会)
- ・清水 敬(高野地区まちづくり協議会)
- ・森山 克彦(大井沢地区まちづくり協議会)
- ・山下 勝博(みずき野地区まちづくり協議会)
- ・古屋 正博(守谷 B 地区まちづくりふれあい会)
- ・村山 守(守谷 C 地区まちづくり協議会会長)
- ・星野 陽子(ひがし野まちづくりの会)

○事務局

- ・小林教育部長、古橋参事
- ・学校教育課 前川課長、坂本課長補佐、菊地係長、高村係長、中北主任、岡野主任、三浦主任、細谷主事
- ・㈱ちばぎん総合研究所 調査部 福田

○傍聴人4名

4 会議内容(発言の主要部分を掲載)

(1)会長あいさつ

- ・今年度は、守谷市全体の小中学校適正配置の方針を検討していくことになる。令和6年度第1回目である本日は、新任の方もいるため状況を共有・理解することを主な目的としている。疑問点等があれば積極的にご発言いただきたい。今年度も引き続きよろしく

お願いします。

(2)部長あいさつ

【部長】

- ・昨年度は黒内小学校の過大規模校化にかかる対策について検討いただいた。守谷市全体の児童・生徒数は令和3年度をピークに減少傾向だが、守谷駅周辺では増加が続いている。児童・生徒数が極端に多い地域と減少する地域が混在し、学校の大規模化と小規模化が同時に進行している。子どもたちにとって望ましい教育環境を提供するため、学校の適正な規模・配置を見直したい。
- ・委員の皆様には、市内小中学校の適正なあり方について、基本的な考えを整理いただき、今後の基本方針策定に向けた審議をお願いしたい。本日はよろしくお願いします。

(3)委嘱状交付

- ・新規委員へ委嘱状交付
- ・自己紹介

(4)協議事項

①副会長の選出について

【会長】

- ・条例では、副会長の選出について委員の互選により定めるとしているが、皆様からご意見をいただくことは難しいと思うので、事務局から提案いただくということでよろしいか。
- ・事務局からお願いします。

【事務局】

- ・市内全小中学校の適正配置方針を考えていくことから、学校の現状などを一番分かっていらっしゃる守谷市校長会会長である奈幡委員を推薦させていただきたい。

【会長】

- ・奈幡委員ということでご提案がありましたが、いかがでしょうか。

(意義なし)

【会長】

- ・奈幡委員に副会長職ということでよろしくお願いします。簡単にご挨拶をお願いできればと思います。

【委員】

- ・昨年度は当該校ということで皆様には慎重にご審議いただいた。今回は立場を分けて発言することが大事だと認識している。ご指導のほどよろしくお願いします。

②令和5年度守谷市通学区域審議会審議経過について

【事務局】

- ・資料 No.1「令和5年度守谷市通学区域審議会審議経過について」説明。

【会長】

- ・これまでの審議経過について大枠を説明いただいたが、質問等はあるか。

【委員】

- ・令和7年度からスクールバスを導入すると記載があるが、予算は確保しているのか。

【事務局】

- ・現在、学校選択希望の申込を受付中である。7月末の人数確定次第、バスの台数、大きさ等を決めて、予算を確保して実施準備を進めていく流れとなる。

【委員】

- ・今現在、変更を希望された人数はどの程度いらっしゃるのか。

【事務局】

- ・資料No.6「就学校変更申立による小学校変更について」説明
(5月29日現在、御所ヶ丘小で3名、郷州小学校で5名)。

【委員】

- ・在校生は、自ら学校を変更するとは思えない。

【委員】

- ・在校生でも変更を検討している方はいらっしゃるとの話は聞いている。

【委員】

- ・学校選択制について保護者からの反響はあるか。

【委員】

- ・この件に関しては、教育委員会が相談窓口となっており、在校生保護者からの質問は1つも無い。

【事務局】

- ・希望により学校を選択できるということで、学校の情報を求める声は非常に多く寄せられている。そのため、学校説明会を開催し、動画も公開した。また、施設見学会の開催を進めており、実際に検討先の学校現場を見たいという声に対応している状況である。

【委員】

- ・進捗は順調ということでよろしいか。

【部長】

- ・数字としては厳しい状況であるが、保護者の皆さんが不安なく学校を選べるよう努力している。1人でも多くご協力いただければと思っている。

【委員】

- ・子どもたちにとって、学校が変わることは非常に大きいことだと思う。ぜひ気にかけながら進めていただきたい。

【委員】

- ・この議論が始まった後、高学年のある児童から、なぜ他の学校に行かなければならないのかと質問があり、返す言葉がなく、心配をかけているねということしか言えなかった。
- ・議論が進むにつれて、数字を含めて様々な情報が保護者に浸透してきた。情報をどう解釈するかは保護者に委ねられるところだが、子どもたちは誇りをもって黒内小に通っていると信じている。子どもたちを預かる学校側として、今回のことで黒内小に通っている児童やこれから通う子どもたちが、疑心暗鬼や不安になることがあってはならないと、年度始めに教職員で確認したところである。

【会長】

- ・これまでお聞きいただいた通り、当初はある地区を設定して全員移っていただく案だったが、一斉の変更は地域の反対もあり不可となった。また、在校生の変更も難しいということで、基本的には新しく入学する1年生に他の学校を提案している。在校生は希望すれば学校を変更することが可能だが、基本的には1年生が対象であるため、人数はふたを開けてみないとわからない。
- ・他に質問はあるか。

【委員】

- ・選択対象が御所ヶ丘小、郷州小の2校となっているが、松並青葉地区から3km以上であれば市内全ての小学校が対象となると思う。なぜ御所ヶ丘小、郷州小の2校に絞っているのか。
- ・既に学校変更された方は市内5校に分散している。2校に絞ったのは駐車場やスクールバスの観点からなのか。例えば、人数でみれば高野小の方が児童数は少ない。児童数のバランスから選択したのか。

【事務局】

- ・黒内小の適正規模化対策を検討するとともに、北園交差点の混雑緩和が必要であり、児童数が集積している特定地域として、まず、松並青葉地区を選定した。そのうえで、朝夕の混雑時にバス20分で確実に登下校が可能な小学校として2校を選定した。
- ・おっしゃるとおり、高野小学校は施設としては余裕があるが、仮に大人数を受け入れるとなった場合に、通学時間や毎日の大型バスの進入が難しいということで選択対象から外した。

【委員】

- ・先日、通学時間帯の北園交差点の現状を見て、非常に危険であり、早期に混雑解消を図る必要があると感じた。
- ・数年後には黒内小の児童数も減少が見込まれているが、そのときにどのように対応するかについても考えているのか。

【事務局】

- ・選択制とすることでどの程度緩和されるかが見えないなかではあるが、昨年度、答申いただく際、黒内小の施設は 800 人台が適正規模であり、800 人台が見込まれた時点で、本審議会でスクールバス導入による特定地域選択制度を終了する時期を見定めていくということを進めている。

【委員】

- ・保護者の考え方によっては、転校や兄弟で別の学校に通うことになる家庭もあり心苦しいが、現状をみると、児童数を平準化すべきだと思う。バランスをとった方が、先生方も、よりきめ細かく手厚い対応ができるかもしれない。
- ・実際、学校選択制度に理解いただいた希望者は数人いらっしゃる。年に数回の施設説明会ではなく、保護者やお子さんにもっと学校を見ていただいて、丁寧に説明し、学校を移動するメリットを強調していかないと、選択希望者は増えないのではないかと。

【会長】

- ・前年も同様の議論があった。児童数が多くても、学校の努力もあり児童はそれほど苦勞せずに過ごせているようだが、規模としては明らかに大きい。そこで、特定の地域の方にバスで他校へ通学いただく案を出したが、黒内小学校に通える土地を選んだ方など、住民の反対、地域の理解が得られず縮小した案となった。時間をかけて計画的に進められればよかったが、来年から急な変更は理解を得られないということで、新しく入学するお子さんからの選択制となった。

【委員】

- ・昨年、教育長に、子どもは非常にデリケートで転校の負担は大きい、移動するなら新入生から選択制とすべきだと申し上げた。ただ、北園交差点については、通学補助員が一生懸命対応しているが非常に危険だ。難しい問題であるが、早急に結論を出して進めていければと思っている。

【会長】

- ・昨年度までの経過についてご意見等をお伺いしているが、今年度の議論もあるので、一旦、先に進めさせていただいたく。

③守谷市立小中学校適正配置基本計画の検討について

【事務局】

- ・資料No.4「守谷市小中学校適正配置基本方針の検討について」説明。

【会長】

- ・説明について質問等あればお受けしたい。

【委員】

- ・アンケートはどのような手法で実施したのか。

【事務局】

- ・すべて紙媒体で配布し、小中学校保護者向けは学校を通じて、未就学児童保護者向けは保育園や幼稚園を通じて、一般市民向けは郵送で配布した。

【委員】

- ・守谷中学校は、小規模校と大規模校の児童が進学する中学校である。毎年、学校経営についてアンケートを実施して意見を把握しているが、ここに記載しているような問題はない。勉学の面でも守谷中のレベルは高く、大規模、小規模という小学校の違いもそれほどあるように思えない。
- ・学校経営は、学校の特徴をどのように出すかである。個人の考えだが、地域と子どもたちがどのように関わり、より良い関係を作れるかだと思う。
- ・アンケートを実施したら、大体真ん中になる。方針を決めるにあたって規格的な対策ではなく、より良い学校の適正・配置のために我々もしっかり考えて協力していきたい。

【会長】

- ・本日は、各委員からご質問・ご意見をいただき共通理解を図ることとする。ご自由にご発言いただきたい。

【委員】

- ・色々な人から話を聞くと、昨年度実施のアンケートについて、まさか自分の身にふりかかるとは思わず気軽に回答したとのことだった。当事者として回答いただいた今年1月実施のアンケートでは、通学距離の許容範囲など前回と結果が異なり、1月のアンケートの方が守谷市民の意見に近いのではないかと。昨年度実施のアンケートをもとに方針策定を進めることで、市民との認識の違いが生じるのではと懸念している。

【委員】

- ・黒内小の過大規模校化について、学校から子どもたちに説明したことはなく、話す立場にもないと捉えていたが、現状少し変わってきている。保護者アンケートが複数回行われ、校舎や校庭の面積など、比較されることのなかった各学校の数値が可視化された。黒内の子どもたちは、数字だけでいえば、狭く、児童の多い環境で過ごしていると認識され、その点は十分配慮したいと思っている。
- ・4月23日の読売新聞の記事タイトル「TX効果で守谷駅近くの児童急増、入学式3回・時差登校も…収容しきれずスクールバスで近隣校へ」は、学校として衝撃を受けた。校内に新聞を紹介するコーナーがあり、読売新聞の記事も、地域の方は子どもたちを応援しているとのメッセージを添えてあえて掲示している。過大規模校であることは否定しない。黒内小は、

狭くて、多い学校かもしれないが、子どもたちが大好きな学校にしなければならない。逆の視点では、黒内小には 104 人の教職員がおり、規模に応じた加配職員、専科教員も在籍している。もちろん、アンケート結果では十分ではなく、反省する部分もあるが、教職員は知恵を絞って取り組んでいる。

- ・アンケートの数値をどのように読み解くかが気になった。「大規模校化のデメリット」をみると、「教職員が一人ひとりの管理を十分にしづらい」の回答が多くなっている。教職員とは担任を指すのか、教職員を指すのか、また、原因が大規模校だからなのか、1学級の人数、担任の指導力にあるのかまでの分析がこの数字だけではわからない。
- ・先日、学校説明会で「過大規模校で教室が足りないから1学級の人数が多いのか」との質問を受けた。どの学校でも国の学級編制基準を遵守しており、1学級 35 人を超えた時点で2クラスになる。このような基本的な考え方を地域や保護者に積極的に説明する必要があると感じた。

【会長】

- ・委員の方々のご意見を受けると、アンケート結果をどう読むかについて、検討の余地があることが分かった。

【委員】

- ・アンケートの「学校の適正配置・学区設定において重視すべき要素」をみると、「通学時の安全性」が突出して多いことから、子どもの安全面を重視して審議していきたい。地域で協力できることはしていきたいし、まちづくり協議会の委員もいらっしゃるので、通学路に関して協力できることがあれば要請いただきたい。

【委員】

- ・子どもの安全という点では、学校適正規模の本筋ではないが、小中学校適正配置基本方針の検討内容(案)の項目に、災害など有事対応の視点も入れるべきだと感じた。

【委員】

- ・昨年度から小学校の新設を発言している。今年度から市で小学校新設にかかる検討会議が開催され、来年3月に新設校の建設可否を決定と伺った。結果によって議論は変わってくる。

【部長】

- ・地域別説明会のなかで、守谷駅東側に新設校は検討できないかとの意見が多くあり、市長にも報告している。場所や財政、守谷小と黒内小をまたいだ学区で 20～30 年児童数が確保できるかなど、今年度庁内で検討を進め、3月までに市長が判断することとなる。適宜、本会議でも情報共有していく。
- ・今年度、本会議では、大規模校・小規模校の考え方を整理し、全体の方向性となる小中学校適正配置方針を検討いただきたい。

【会長】

- ・新設校を建設する場合、それなりの期間と費用がかかる。30 年後も見据えると複合施設

化なども視野に入れる必要があるなど、本審議会ではなく市長部局で総合的な観点から検討いただく事項になる。

【委員】

- ・新設校建設にあたって、守谷小学校も分離するとなると大きな問題なので慎重に議論いただきたい。
- ・幹線道路294号を横断する通学路が危険なことは事実であり、安全・安心という点が一番のポイントである。学区割も含めて、子どもたちが安全・安心に過ごせる環境を考えていきたい。
- ・昨年度、子どもの安全・安心を優先するため幹線道路で学区を分けることについて議論があったが、まちづくり協議会の方に意見を伺いたい。

【委員】

- ・守谷、黒内、松ヶ丘学区などには複数のまちづくり協議会がある。地域のまちづくりとして、学校単位でまとめることが理想だが、町内会などの意見も反映すべきである。

【会長】

- ・1つの観点として、今後議論に盛り込んでいくこととしたい。
- ・他に質問などはあるか。

【委員】

- ・令和6年2～3月に、黒内小PTAで通学班の見直しを行った。核家族の多いエリアでは、地域の力を借りることは難しいと考えていたが、新入生については昇降口まで付き添ってもらいたいと周知したところ、保護者の見守り・付き添いが急増し、地域の交通指導員や教職員とともにとても協力してくれている。先ほど、話にあった地域の力もお借りし、連携を図っていきたい。

【委員】

- ・学校が長年できなかった通学班の見直しをPTAで行っていただいた。北園交差点を通過する児童数は、今年度100人増え900人となったが、今のところ混乱は生じていない。時差登校や登校班の見直し、付き添いしてくれる保護者の増加など、根本的な解決策にはなっていないかもしれないが、今できる最大の支援をいただき感謝している。

【委員】

- ・今年度のテーマは適正配置ということだが、学区の見直し以外の具体的な手法があれば伺いたい。

【事務局】

- ・国の手引きでは、大規模校の過大解消策として、学校の分離新設や通学区域の見直し、学校施設の増築など、考え得る対策が例示されている。
- ・昨年度、児童の安全性を考慮し幹線道路による通学区域の変更を提案したが、地域性を重

視する意見などが出されて御理解をいただけなかった地区もあるため、地区ごとに捉え方は違うことも認識している。適正化の手法としては色々考えられるが、通学路の安全性や地域の一体化も配慮しながら、過大規模校対策としてどのようなものが考えられるか、今後議論していきたい。

- ・昨年度行ったアンケート結果は、守谷市全体の方針を考えるという意味では、市の人口から見て統計上有意なサンプル数が確保できていると認識している。市全体の大枠の意見として参考にしつつ、各論については各委員の意見を聞きながら議論していきたい。

④今後のスケジュールについて

- ・資料№5「令和 6 年度守谷市通学区域審議会スケジュール(予定)」説明。

【委員】

- ・スケジュールだけではなく、各回の審議内容予定を示していただけると参加しやすい。

(5) 閉会

以 上

議事録署名

奈 幡 正

議事録署名

片岡 正美